



# EMERGENCY WATCH



NO. 93 Sep 2018



神戸こども初期急病センター

2018年8月  
受診者数  
2029人

## 疾患頻度

- |              |      |
|--------------|------|
| 1. 急性上気道炎・感冒 | 508人 |
| 2. 感染性腸炎     | 316人 |
| 3. 咽頭炎・扁桃炎   | 255人 |
| 4. 喘息        | 131人 |
| 5. じんましん     | 94人  |



残暑が少し緩んだかと思えば猛烈な台風が襲来しました。お読みいただいている方の中に被災された方もおられるかと思えます。謹んでお見舞い申し上げます。

台風の被害の中にも予め非難するなど、一部は防ぐことが可能です。こどもの急病の中にも知恵と経験で防ぐことができるものがあります。「事故」です。1～14歳の死亡原因の中で「不慮の事故」が1～2位を占めています。今月は事故についてこどもの成長に沿って分類し、予防について考えたいと思います。

●0～4か月：寝返りができる前の段階です。赤ちゃん一人では身動きはできず、危険なものを手で払いのけたりすることができません。額に貼っていた解熱用のシートがずれたり、ビニールなどが顔面に落ちてきたりして鼻と口の両方を覆うと窒息します。吐いたミルクが詰まって窒息することもあります。哺乳の後はしっかりげっぷをさせ、遠くからでも赤ちゃんの顔が見えるところでできる限り寝かせましょう。抱っこされたり、クーハンで移動中に連れている人がつまずいたりして赤ちゃんが転落することがあります。赤ちゃんを連れているときは不意にバランスを崩しても赤ちゃんが落ちないように少なくとも片手は空けておき、バックルベルトなどでしっかり保定して下さい。

●4～7か月：寝返りができ、多少の移動ができます。手を伸ばして物をつかみ、口に入れることができます。誤飲・誤嚥が起こります。どこの家庭でも気を付けておられるのですが、乳児の視線は非常に低く、親御さんが予想もしないところで誤飲をします。最近では加熱式タバコのスティック・カプセルの誤飲が増えています。ボタン電池も危険ですが後を絶ちません。赤ちゃんと同じ低い視線で部屋を見渡し、お掃除・片付けをしましょう。しっかり抱っこしていても予想外に強く暴れて(のけぞり)、転落することがあります。

●7か月～1歳：移動が素早くなります。予想より早く動き、高い場所に手が届きます。引き続き異物誤飲のリスクが高いです。お母さん・お父さんが触っていたものに興味を抱き、手を伸ばします。ローテーブルの上は何も残さず、高いテーブルでも端にはものを置かないようにしましょう。何でも手で触ろうとするので暖房器具やお湯でやけどしたり、鋭いもので切り傷を負ったりします。転倒しても手で守ることができず頭をぶつけます。

●1～2歳：屋外でもひとりで歩き始めます。屋内では高いところにもものぼります。危険を知らないのどこにでも行きます。声で注意しても止まりません。数秒間目を離しただけで車道に出たり、浴槽に転落したりします。「なぜそんなところに...」を繰り返します。

●3～6歳：早く走ったり、三輪車や自転車で下り坂を駆け下りたりします。お母さんはずぐには追いつけなくなってきました。ダメだと言われていても意志を持って「いたずら」します。親から離れる時間も長くなります。繰り返し「危険」を教え「注意」を促しましょう。

<http://kodomo-qq.jp/jiko/index.php>  
など、Webもご参考にして下さい。